令和８年度「福井高専地域連携アカデミア」総会議事要旨

日　時　　令和８年７月３０日（木）１１時１０分～１２時１５分
場　所　　福井工業高等専門学校 図書館２階コミュニティールーム
出席者　　＜令和８年度役員等及び出席会員企業　計７１名＞
会　長：信越化学工業（株）加藤武生工場長
副会長：ベルテクス（株）田中代表取締役会長
理　事：増永眼鏡（株）増永代表取締役社長、（株）jig.jp 福野取締役創業者
監　事：大和建設（株）大塚取締役会長、
武生特殊鋼材（株）　河野代表取締役社長
顧　問：福井県産業労働部産業技術課　黒田企画主査（田中産業労働部長の代理）
会員企業：石黒建設（株）、井上商事（株）、（株）ウエキグミ、OSP レーベルストック（株）、大阪有機化学工業（株）、（株）カンセツ、（株）熊谷組北陸支店、（株）クレスコ、（株）光陽コンサルタンツ、（株）コーアツ、（株）サカイエルコム、鯖江精機（株）、（株）サンワコン、島津プレシジョンテクノロジー（株）、スガイ化学工業（株）、セーレン（株）、（株）ダイエイ、大鉄工業（株）北陸支店、大和電建（株）、田中建設（株）、東京コンサルタンツ（株）福井支店、（株）田中地質コンサルタント、寺本エンジニアリング（株）、東洋染工（株）、（株）TOP、轟産業（株）、飛島建設（株）、（株）ナカテック、ナック・ケイ・エス（株）、（株）ナチュラルスタイル、日華化学（株）、日信化学工業（株）、（株）福井銀行、福井鋲螺（株）、（株）ホクシン、（株）ほくつう福井支社、北陸リトレッド（株）、前田建設工業（株）、（株）松浦機械製作所、丸高コンクリート工業（株）、丸文通商（株）福井支店、三菱電機プラントエンジニアリング（株）、（株）ミルコン、昭和工業（株）、柳井化学工業（株）武生工場、（株）ユーテクノソリューション、吉岡幸（株）、ＹＫ建設（株）、（株）ワキタＣＳＳ技術開発、
その他：　公益財団法人日本高専・大学支援財団　松尾シニアディレクター
福井高専：上田校長、中谷総務・企画主事、羽生事務部長、古谷地域連携テクノセンター長、橋本副センター長、山脇副センター長（講演者）、安丸研究推進担当ＲＡ、南保産学連携担当ＲＡ、岩堀知的財産担当ＲＡ、植松総務課長、近藤総務係長、酒井プロジェクト支援係長、西田プロジェクト支援係主任、髙橋プロジェクト支援係員

総会に先立ち、福井高専の研究内容を紹介する小講演として、「プラスチック製品における紫外線等の光反応による付加価値の創製」をテーマに、未来社会デザイン工学科山脇准教授による講演を実施した。

引き続き、公益財団法人日本高専・大学支援財団松尾シニアディレクターから、「高専・大学教育支援と人材育成のための取り組み」について説明があり、アカデミア会員企業に対して支援の協力依頼があった。

その後、福井高専植松総務課長の司会進行により総会を開催した。例年は事務局を担当している福井県商工会議所が司会進行を務めているが、都合により欠席となったため、議事に入るまでの進行を福井高専が担当する旨の説明があった。

はじめに、加藤会長から挨拶があり、総会出席及び活動支援に対する謝意が述べられた。また、地域連携アカデミアとして福井高専の未来志向の学生の育成に大きく期待を寄せており、引き続きアカデミアとして協力することへの依頼があった。さらに、会員数が１８１社となったことに触れ、今後も活動の充実、福井高専学生への教育支援及び会員相互の交流促進を進めていきたいとの説明があった。

続いて、上田校長から挨拶があり、アカデミア会員による教育研究活動支援への支援に対する謝意が述べられた。また、福井高専及び福井県の強みをさらに伸ばし、福井高専をより魅力がある学校にしていきたいとの説明があった。

その後、加藤会長が議長となり、前年度総会以降に加入のあった新規会員３２社を紹介するとともに、当日出席した１２社及び前年度入会時期の都合により総会に参加できなかった日華化学株式会社から、それぞれ挨拶があった。

【審議事項】

１．役員の選出について

加藤議長から、令和８年度の役員の選出について、資料９「福井高専地域連携アカデミア会則」第６条第１項に基づく説明があった。

令和７年度総会において、令和７年度及び８年度の２年間を任期とする役員が承認されていること、また顧問については、福井県産業労働部長大塚智樹氏の退職に伴い、後任に田中睦氏が着任したことから、アカデミア会則第８条の規定に基づき、役員会の推薦及び会長による承認を既に実施している旨の説明があった。

改めて新役員及び顧問について次のとおり紹介があった。

会　長	信越化学工業株式会社武生工場	工場長	加藤　大紀　氏
副会長	ベルテクス株式会社	顧問	田中　義人　氏
理　事	増永眼鏡株式会社	代表取締役社長	増永　宗大郎　氏
理　事	株式会社 jig.jp	取締役創業者	福野　泰介　氏
監　事	大和建設株式会社	取締役会長	大塚　英治　氏
監　事	武生特殊鋼材株式会社	代表取締役社長	河野　通郎　氏
幹　事	福井工業高等専門学校	地域連携テクノセンター長	古谷　昌大　氏
顧　問	福井県産業労働部	部　長	田中　睦　氏
顧　問	福井県商工会議所連合会	会　頭	八木　誠一郎　氏

２．令和７年度事業報告、決算（案）及び監査報告について

古谷地域連携テクノセンター長から、資料２に基づき令和７年度の地域連携アカデミア主催事業及びアカデミアから地域連携テクノセンターへの助成事業及びその他の地域連携テクノセンター関係事業について概要報告があった。

次いで、植松総務課長から資料２に基づき令和７年度決算（案）の説明があった。

その後、大和建設株式会社の大塚取締役会長から、令和７年度の業務及び経理について、武生特殊鋼材河野代表取締役社長とともに令和８年６月８日に監査を行い、適正であることを確認した旨の報告があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

３．令和８年度事業計画及び予算（案）について

古谷地域連携テクノセンター長から、資料３に基づき令和８年度の地域連携テクノセンターにおける事業計画（案）の説明があった。

次に植松総務課長から資料４に基づき、令和８年度予算（案）について説明があった。今年度は繰越額が増額となったが、総会前の役員会で協議し、「予算ありきの単発的な企画ではなく、持続可能な事業を中心とする」方針とした旨の説明があった。

事業費として、異業種交流会を今年も JOINT フォーラムと同日に開催すること、キャリア教育セミナーの費用補助については、会員数の増加を踏まえ 60 万円を計上していることについて説明があった。

また、昨年に引き続き、会員企業と共同研究を締結した教員への助成制度の実施を検討しており、対象者増が見込まれることから 40 万円を計上していることについて説明があった。

その他、昨年度に引き続きアカデミア会員企業の海外事業所での学生インターンシップ助成を実施することとし、現時点で 4 名の学生から希望が寄せられているため、60 万円を計上すること、高専カフェなど地域連携テクノセンター事業への助成として 5 万円を計上していること、さらに、福井高専内の起業家工房の活動支援に 20 万円を計上していることついて説明があった。今年度からの新規事業として、学生の課外活動を支援する事業を検討しており、本校では、ロボコン、アマチュア無線研究会などの高専ならではの部活動をはじめ、運動系、文化系の多数の部活、同好会が活動しているが、物価高騰による影響や、機器の老朽化といった課題があり、学生の意見を踏まえた環境改善を進めたいとの説明があった。アカデミア会員企業を招いての部活動見学会、部活成果発表といった、学生と企業の直接の交流の場も検討しており、経費として 40 万円を計上していることの説明があった。

今年度からの新規事業として、学生の課外活動を支援する事業を検討していることについて説明があり、本校では、ロボコン、アマチュア無線研究会などの高専ならではの部活動をはじめ、運動系・文化系の多数の部活動及び同好会が活動しているが、物価高騰による影響や、機器の老朽化といった課題があり、学生の意見を踏まえた環境改善を進めたいとの説明があった。また、アカデミア会員企業を招いての部活動見学会、部活成果発表といった、学生と企業の直接の交流の場も検討しており、経費として 40 万円を計上している旨の説明があった。

令和 8 年度予算について、計画した事業を着実に実施しながら、福井高専とアカデミア会員企業との協力の輪を広げ、会員数の増加を図るとともに、将来的には事業費及び会議費等を会費収入で賄える体制の構築を目指し、それまでは予備費を活用しながら運営していく計画であるとの説明があった。

上田校長から、課外活動支援事業に関係して、課外活動は学生の教育、育成に非常に有効であり、これまでの共同研究等でのアカデミア会員企業様とのつながりがあったが、課外活動についても学生と直接のつながりの機会を設け、ご支援いただきたいとの補足説明があった。

予算案に対し、（株）光陽コンサルタンツから、現在、高専のプールが活用されていないことについて質問があり、植松総務課長から、主として老朽化と維持費の関係によるものとの回答があった。水泳部や学生が水泳を学ぶ機会としては、市等のプールを活用することの説明があった。上田校長から、現在、全国の高専では体育の授業において水泳を実施しない高専も増加傾向にあるとの補足説明があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

４．令和８年度アカデミア会員企業との共同研究に対する助成制度について

古谷地域連携テクノセンター長から、資料５に基づきアカデミア会員企業との共同研究に対する助成の実施要領（案）の説明があった。本制度は昨年度導入したもので、福井高専と地域連携アカデミア会員企業の連携の促進、相互の所有する技術等の融合、発展を目的として、会員企業との共同研究締結実施時に限定した助成制度であり、利用者には学内外でのイベントでの研究発表等を依頼するとの説明があった。

審議の結果、原案のとおり承認された。

【報告事項】

１．地域連携テクノセンターへの寄附金について

植松総務課長から、資料６に基づき報告があった。

２．福井高専ネーミングライツ進捗状況について

植松総務課長から、資料７に基づきネーミングライツの進捗状況について報告があった。現在、ネーミングライツパートナー募集中の施設について説明があった。

３．福井高専地域連携アカデミア会員企業訪問バスツアーについて

中谷総務・企画主事から、令和９年度において福井高専とアカデミア会員企業の特色を活かしたバスツアーの実施を検討しており、高専生が小中学生と保護者の方を連れてアカデミア会員企業様を訪問する企画である旨の説明があった。役員会での審議のご意見をもとにアンケートを作成したため、回答への協力依頼があった。

議事終了後、加藤会長から、福井高専の３名のリサーチアドミニストレーターの紹介があり、一言ずつ挨拶があった。

最後に、古谷地域連携テクノセンター長から挨拶があり、アカデミア会員に対し、日頃の支援への御礼が述べられた。また、令和８年度の事業を一つずつ着実に進めていきたいとの付言があり、地域連携テクノセンターは、教職員、学生及び企業が集う場所であり、全ての関係者にとって居心地の良い場所となるよう努めていきたいとの説明があった。

加藤議長から予定されていた全審議事項が終了したことの説明があり、司会進行役植松福井高専総務課長から、総会を閉会する旨の宣言があり、総会は終了した。

以　上